

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 4月

「この日を神と共に」 「教会 (III)」 「罪を取り除く」 「さぼうの洋風おこわ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「教会(Ⅲ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「この日を神と共に」

12

This Day with God

現代の真理

「罪を取り除く」

43

清めの特別な働き

力を得るための食事

「ごぼうの洋風おこわ」

48

お話コーナー

「初期の働き(Ⅰ)」

50

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2017年3月31日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamstime on front cover;

Sermon view on pages 8, 40, Joe Maniscalco on back cover.

Printed in Japan

完全に神の恵み

彼ら……の心は、生きて、すがり、信頼する信仰を通して、自分たちの罪の許しのすばらしい証拠を一度も経験したことがない(信仰と行い 16)。

神から与えられた光のうちに、この重要な主題が、他の問題にまさってわたしの思いに植えつけられている。義認は完全に恵みによるものであり、墮落した人間のできる何かのわざによって買うものではない(信仰と行い 20)。

人々は、あたかも悔改めが天への道であり門であるかのように考えて、人が悔改めれば許されるものと考えるように教育されている。……信仰による義認に関して、信仰に功績をおく危険性がある(信仰と行い 25)。信仰にはそれによって救いを得られるような功績は何もない。しかし信仰はキリストの功績をつかむことができるために、罪に対する治療法を提供するのである(信仰と行い 100)。

ある人々は悔改めと告白によって神の許へ来て、自分たちの罪が許されたことさえ信じるが、それでいながら、神の数々の約束をわがものと主張すべきほどに主張しないのである。彼らはイエスが常に臨在して下さる救い主であることを理解せず、このお方が心のうちに始めてくださった恵みの働きを完成して下さることにより頼んで、自分の魂の守りをこのお方にゆだねる用意ができていない。彼らは自らを神にゆだねていると考えているが、そこには大いに自己依存がある。一部を神に信頼し、一部を自分自身に信頼する良心的な魂がいる。彼らは神のみ力によって守られるためにこのお方を見ることをせず、かえってこのお方に受け入れられるために、誘惑に対する警戒と、しかるべき義務の遂行に依存しているのである(信仰と行い 38)。

わたしは尋ねる、どのようにしてこの問題をありのままに提示することができるだろうか?主イエスは、人が生きた信仰をもってつかむためにご自分の義を提示することによって、すべての力、すべての恵み、すべての悔悟、すべての傾向、すべての罪の許しを与えて下さる。そして、この信仰も神の賜物なのである。もしあなたが、人のうちにある善であり聖であり高尚で美しいものをすべて集めて、それを神の御使たちに人間の魂の救いや功績に役立つものとして提示したとしたら、その提示されたものは反逆として拒絶されることであろう。自分たちの創造主のみ前に立ち、そのお姿を囲むこの上ない栄光を見ながら、天使たちは、屈辱の生涯に渡され、罪深い人間に拒絶され、蔑まれ、十字架につけられるために世の初めから与えられた神の小羊を見ている。だれが犠牲の無限性を測ることができようか!(信仰と行い 24)

罪人は自分の罪が、自分の身代わりであり保証人であられるお方によって負われたために、自分の罪の許しを受ける。(信仰と行い 103)。

イエスは至聖所に、今やわたしたちのために神のみ前に出ておられる。そこで、このお方は一瞬一瞬、ご自身のうちに完全なご自分の民を提示することをおやめにならない(信仰と行い 107)。

イエスはわたしたちが神に受け入れられることの担保である。(信仰と行い 107)

21章 神の教会 (Ⅲ)

教会の規律

(a) 教会の規律は、マタイ 18:15, 16 にイエスによって与えられた命令に基づいています。訓告を愛のうちに与えることも、また神のみ言葉のうちに受け入れた真理に従って訓告を一特に牧師から一受け入れることも、すべての教会員の責任です (箴言 15:31, 32; 10:17; テモテ第二 4:2; テトス 1:9; 2:15)。

(b) わたしたちは互いに訓告しあう責任がありますが、すべての訓戒は、効果的かつ持続的であるために、明瞭に、また愛の精神のうちに与えられるべきです。「もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい」(ガラテヤ 6:1; 黙示録 3:19)。この愛の精神は、誤っている人々に譴責を与える一方で、彼らのために自分の命を捨てようとする態度に表されます (ヨハネ 13:34; 15:12, 13)。

(c) 教会の規律は、除名とは異なり、教会員に自分の状態を顧みて自分の方法を正すために段階を踏むあいだ、一時、制限を加えるものです (ヘブル 12:5-12)。

「もし過ちを犯している人が悔い改め、キリストの規律に服するならば、彼はもう一度試す機会が与えられるべきである。そしてもし彼が悔い改めず、教会の外にいるとしても、神の僕たちにはなお、彼のためになすべき働きがある。彼らは悔い改めるよう熱心に努めるべきである。そして彼の罪がどれほど悪質なものであったとしても、もし彼が聖霊の奮闘に屈服して、自分の罪を告白し、それを捨てることによって悔い改めの証拠を示すならば、彼は許され、再び囲いへと迎え入れられるべきである。彼の兄弟たちは彼が正しい道へ進むよう奨励し、自分がその立場にいたら人から扱われたいと望むとおりに彼を扱い、自分たちも誘惑に陥ることがありはしないかと反省すべきである」(福音宣伝者 501)。

「あなたは、兄弟が過ちを犯したときに、彼を救うために自分の命を与えることができると感じるであろうか。もしそう感じるならば、あなたは彼に近づいて彼の心を動かすことができる。あなたはまさにその兄弟を訪ねるべき人なのである」(教会への証 1 巻 166)。

「この働きにわれわれは協力しなければならない。『もしもある人が罪過に陥

っていることがわかったなら、……その人を正しなさい』である(ガラテヤ 6:1)。ここに、『正す』(restore: 回復する)と訳されている言葉の原語は、脱臼した骨をもとにもどすという意味をもっている。これは意味深い言葉である。過失や罪に陥る者は、自分の周囲のいっさいのものに対する関係から放り出されるのである。彼は、自分の過失をみとめ、後悔の念に満たされるかもしれないが、自分で自分を救うことはできない。彼は敗北し、助けてくれる者もなく、混乱し、途方に暮れる。彼は、回復され、いやされ、もう一度立ち上がらなければならない。『霊の人であるあなたがたは、……その人を正しなさい』とある。

これをいやすことができるのは、キリストの心から出る愛のみである。木に樹液が流れ、体内に血液が流れているように、この愛の流れている人だけが、傷ついた魂を回復することができる(教育 121,122)。

「自分の行ないによって救いを得ようとする努力は、必然的に、罪に対する防壁として人間的なきびしい要求を積み重ねるように人々にさせるのである。自分たちが律法を守れないのを知って、彼らは、自分自身のさまざまな規則や規定を作り出して、自分を無理にそれに従わせようとするのである。このようなことはみな、人の心を神から転じて自己へ向けるのである。神の愛は心から消え去り、それとともに隣人に対する愛も消えうせてしまう。人間の作り出した規律は、おびただしい要求を伴うもので、その規律の支持者に、定められた人間的標準に達しないすべての人をさばくようにさせるのである。自分本位の狭い批判の空気は、けだかく寛大な感情を押えつけ、人々を自己中心的な裁判官や心の小さなスパイにしてしまう(祝福の山 153)。

「人の誤りを正し、改めさせようとする場合、ことばに気をつけなければならない。ことばは命に至る命の香りともなれば、死に至る死の香りともなる。人を譴責したり、勧告したりするときに、傷ついた魂をいやすのにはふさわしくない鋭いきびしいことばを出す人が多い。このような思慮に欠けた発言によって、心を傷つけ、誤った人を反抗的にさせることがよくある。真理の原則をのべ伝えるものは、すべて、天からの愛の油を受ける必要がある。どんな場合であっても、譴責のことばは、愛をもって語らなければならない。そうするならば、わたしたちのことばは、人を怒らせたりしないで、改革をうながすことができる。キリストは、聖霊によってわたしたちに、活力と能力を供給してくださる。これはキリストのお働きなのである(キリストの実物教訓 312)。

(d) 除名もまたキリストの命令に基づいています (マタイ 18:17, 18; コリント第一 5:11-13; ローマ 16:17; テサロニケ第二 3:6; テトス 3:10, 11)。教会は、神のみ前に、公然とあくまでわたしたちの信仰の諸原則に反してふるまう人々を教会員から除く義務があります。

「罪を犯し、悔い改めることを拒む人々の名は、教会名簿にとどめておかれるべきではない。さもないと聖徒たちは彼らの悪行に責任を問われることになる。不法の道を進む人々を訪問し、働きかけるべきであるが、もし彼らがその時に悔い改めることを拒むならば、神のみ言葉の中に命じられている規則に従って教会員から外されるべきである。……

神の忠実な使命者によって与えられる訓告や警告を聞くことを拒む人々は、教会にとどめておかれるべきではない。彼らは除名されるべきである。なぜなら、彼らはイスラエルの宿営の中のアカンのように、欺かれ、欺くものとなるからである」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1096)。

『よく言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天でも皆つなわれ、あなたがたが地上で解くことは、天でもみな解かれるであろう』(マタイ 18:18)。キリストがお与えになったすべての詳細が、真実なクリスチャン精神のうちに実行された時に、その時に初めて、天は教会の決定を批准する。なぜなら、その教会員はキリストの思いを持ち、このお方が地上におられたならなさるはずのことをするからである」(レクテッド・メッセージ 3 巻 22)。

(e) その人が教会員となっている教会だけが、按手を受けた牧師(権限が与えられている場合は長老)の指導の下、総会の総理もしくはその代表者と相談の上、合法的な方法で、神のみ言葉と調和し、除名を執り行う権限が与えられています(テモテ第一 1:19, 20; 6:3-5; コリント第一 5:1-13; テトス 3:10, 11)。

(f) この過程において、個人的な罪であれば、間違いなくマタイ 18:15-17 のみ言葉に従う必要があります。何らかの公の罪であれば、教会が非難を受けることがないように、速やかな行動を伴う違った方法が必要とされる場合があります(テモテ第一 5:20)。(教会への証 2 巻 14, 15 参照のこと)。

(g) 一度人が囲いから除名され、教会員ではなくなったら、わたしたちはその人を「異邦人または取税人」(すなわち、外部者)とみなして同様に扱う必要があります。信仰を持たない人々のために働くように、その人の再改心と回復のために特別な働きがなされる必要があります(ルカ 15:4-6)。教会の中に分裂を生

じさせている人々とはそれ以上交わりを持つべきではありません（ローマ 16:17）。

「どのような性質の罪であっても、それによって神が誤解や個人的な被害の解決のために定めてくださった計画が変更されることはない。キリストの精神のうちに、過ちに陥っている人のところへ行き、二人だけで話すことは、しばしば困難を取り除く。キリストの愛と同情に満たされた心をもって、誤っている人のところへ行き、問題を解決するよう努めなさい。その人と落ち着いて静かに論じなさい。あなたの唇から怒りの言葉を漏らしてはならない。その人のより良い判断力に訴えるような方法で語りなさい。次の言葉を覚えていなさい、『かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである』（ヤコブ 5:20)。……

しかし、『もし教会の言うことも聞かないなら、その人を異邦人または取税人同様に扱いなさい』。もしその人が教会の声を聞かないならば、もしその人が彼を更生させるために払われるすべての努力を拒絶するならば、教会にはその人を教会から除名する責任がある。その人の名はそのとき名簿から削除されるべきである」（福音宣伝者 499-501）。

「長老や執事は教会の繁栄に気を配るために選ばれる。しかし、これらの指導者たちは、特に若い教会では、自分自身の判断や責任で、問題を起している教会員を自由に切り離すことができると感じるべきではない。彼らにはそのような権威は授けられていない。多くの人々はエヒウのような熱心さをほしいままにし、自分自身が神とのつながりを持っていないときに、あえて重大な問題において軽率に決定を下そうとする。彼らは謙遜に、熱心に自分たちをその地位に置かれたお方からの知恵を求め、責任を引き受けることにおいて非常に控えめであるべきである。彼らはまた問題を自分たちの総会の総理の前に持ち出し、彼と相談すべきである。一定期間、その主題を丹念に考慮すべきである。神を恐れて、大いに謙遜と誤っている者—キリストの血で買われた者—のための悲しみをもって、しかるべき役員が、真剣で謙遜な祈りをもって、問題を起している者を取り扱うべきである。独断的な権威と頑なで思いやりのない精神をもって告発がなされ、魂がキリストの教会から押し出されてきたとき、なんと方針は違っていたことであろう」（原稿31-ス 12 巻 113）。

「キリストによって与えられた指示に忠実に従ってからでなければ、悪を行った人の名を教会名簿から取り除くことを、どの教会役員も勧告してはならず、どの

実行委員も提言してはならず、教会選挙を行ってもならない。これがなされた時には、教会は神のみ前に潔白である。そのとき、悪はありのままにあらわされ、取り除かれなければならない。こうしてそれがますます広がらないようにするためである。教会が神のみ前に汚されず、キリストの義の衣をまとっているために、教会の健全さと純潔さは維持されなければならない」（福音宣伝者 501）。

「『あなたがたが許す罪は、だれの罪でも許され、あなたがたが許さずにおく罪は、そのまま残るであろう』とキリストは言われた（ヨハネ 20:23）。キリストはここで、他人をさばく自由をお与えになっているのではない。山上の垂訓で、イエスはこのことを禁じられた。それは神の大権である。しかし、組織された教会に、キリストは、教会員個人に対する責任を負わせておられる。罪におちいる人たちに対して、教会は警告し、教え、できるなら回復する義務がある。『あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい』と主は言われる（テモテ第二 4:2）。まちがった行為に対して正しい態度をとりなさい。危険のうちにあるひとりびとりの魂に警告なさい。自分をごまかしているのをそのままにしておいてはならない。罪を罪と呼びなさい。うそをつくこと、安息日を破ること、盗むこと、偶像をおがむこと、そのほかあらゆる悪について神が言っておられることを告げなさい。『このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない』（ガラテヤ 5:21）。もし彼らがあくまで罪を離れないならば、あなたがたが神のみことばによって宣告したさばきは、天で彼らの上にくだるのである。罪を犯すことをえらぶことによって、彼らはキリストを否認するのである。教会は、彼らの行為を承認しないということを示さねばならない。さもなければ、教会自身が主をはずかしめることになる。教会は、神が罪について言っておられることを言わねばならない。教会は、神が指示しておられるとおりに罪を処理しなければならない。そうするとき教会の行動は天で批准される。教会の権威をあなどる者はキリストご自身の権威をあなどるのである」（各時代の希望下巻 343, 344）。

「〔神は〕ご自分の民に、不従順と罪がはなはだしくご自分にとって罪深いものであり、軽くみなされるべきではないことをお教えるであろう。このお方はわたしたちにご自分の民が罪のうちにあることを見出されるとき、罪を彼らから取り除くために、直ちに断固とした措置が取られるべきことをお示しになる。それはこのお方が彼らすべての者に眉をひそめられることのないためである。しかしもし民の罪が責任の地位にある人々によって見過ごしにされるなら、このお方は彼らに

対して眉をひそめられ、神の民は体として、それらの罪に対する責任を負うことになる。過去に神がご自分の民を取り扱われた方法の中で、主は教会を悪から清める必要性を示しておられる。一人の罪人が会衆全体から神の光を締め出してしまふ闇を拡散するかもしれないのである。……

もし民の間で悪が現れ、神の僕たちがそれらに対して無関心にやり過ごすならば、彼らは事実上、罪人を支持し、義認したことになり、同様に有罪となり、確実に神のご不興を受けることになる。なぜなら、彼らは有罪な者の罪に責任ありとされるからである」(教会への証 3 巻 265, 266)。

「囲いから迷い出た人は、厳しい言葉やむちではなく、戻るようにと心を引きつける招きをもって追いかけるのである」(両親、教師、そして生徒への勧告 198)。

「あやまちを犯している兄弟を救うためには、自己の尊厳を犠牲にすることも、自分のいのちを捨てることさえもできると思う時に初めて、あなたは自分の目から梁を取りのけ、兄弟を助ける備えができたと言えるのである。その時あなたは、彼に近づき、彼の心を感動させることができる。非難やけん責によって悪から立ち返った者はいない。多くの者がそれによってキリストから離され、心を閉じて悔い改めなくなってしまった」(祝福の山 60)。

告白

「告白は魂にとって良いものであるが、賢明に行動する必要がある。……多くの、実に多くの告白は、死すべき人間の聞いているところで決して語られてはならないものである。なぜなら、その結果は有限な存在の限られた判断力の予期しないものとなるからである。悪の種が、聞く人の思いや心にまき散らされ、彼らが誘惑の下にくるとこれらの種が芽を出し、実を結び、同じ悲しむべき経験が繰り返されるようになる。なぜなら、誘惑された人々は、これらの罪はそれほど嘆かわしいものであるはずがないと考えるからである。なぜなら、告白をした人々、すなわち長い間クリスチャンであった人々は、まさにこれらの事をしたのではなかったか。こうしてこれらの隠れた罪についての教会での公の告白は、命の香りよりもむしろ死の香りとなることがわかるのである。

この問題において、無謀で大ざっぱな動きをなすべきでない。なぜなら、神のみ事業が不信者たちの目に不面目なものとされるかもしれないからである。も

し彼らがキリストの信徒だと公言する者によってなされた低俗なふるまいについて告白を聞くならば、このお方のみ事業に恥辱がもたらされる。……

告白には、選ばれた数人の前に持ち出され、罪人によって最も深い謙遜のうちに認められるべき性質のものがある。このことは悪徳が徳だと解釈され、罪人が自分の悪い行いを自慢するような方法でなされてはならない。もし、教会の前に持ち出されるべき不名誉な性質のことがあるとすれば、それらを聞くために選ばれたしかるべき数人の前に持ち出すようにしなさい。教会の中に存在した偽善を広く宣伝することによって、キリストのみ事業を衆目の恥辱にさらしてはならない。それは品性においてキリストのようになろうとしてきた人々に非難を投げることになる。これらのことは考慮されるべきである」(教会への証 5 巻 645, 646)。

特別な警告

「殺人の裁判では、被告は、たとえ外部の証拠がどんなに不利であろうと、ひとりの証人の証言で刑を宣告されることはなかった。主は、『人を殺した者、すなわち故殺人はすべて証人の証言にしたがって殺されなければならない。しかし、だれもただひとりの証言によって殺されることはない』と命じられた(民数記 35:30)。イスラエルに対するこの命令をモーセに与えられたのは、キリストであった。大教師イエスは、この地上に弟子たちと共に、人としておられたとき、まちがっている者をとり扱う方法を教えるにあたって、ひとりの人の証言で罪の有無を定めてはならないという教えをくりかえされた。ひとりの見解や意見によって、論議的となっている問題を解決してはならない。これらのことにおいてはどんなときでも、ふたり以上の者が一緒になって、共に責任を負うべきである。『それは、ふたりまたは三人の証人の口によって、すべてのことがらが確かめられるためである』(マタイ 18:16)」(人類のあけぼの下巻 146)。

「神は人間の心が歪んでいることを理解しておられる。個人的な敵意、あるいは個人的な利点の見込みが、幾千もの無実の人の評判と有用性を損なってきた。そして多くの場合、彼らの有罪判決や死という結果をもたらしてきたのである。凶暴で邪悪な人間の価値のない命が、賄賂によって保たれ、一方では国家の法律に反する犯罪は何も犯していない人々が苦しめられてきた。自分の富や権力によって、地位のある人々は裁判官を買収し、無実の人々に対して偽りの証人を連れてくる。だれも一人の証人の証言によって有罪とされてはならないという規定は公

正であり、かつ必要であった。一人の人は偏見、利己心、悪意によって支配されるかもしれない。しかし、二人やそれ以上の人々が同様に偽りの証言を担うほど歪められる可能性は低い。そしてもし彼らがそうしたとしても、別々に吟味することにより、真実の発見へと導かれるものである。

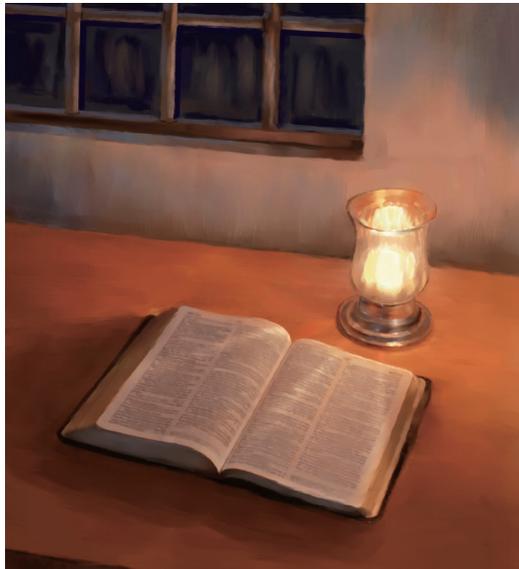
この憐れみ深い規定には時の終わりに至るまで神の民にとって教訓がある。……神は互いに従うことをご自分の僕らの義務とされた。だれでも一人の判断がいかなる重要な問題においても支配すべきではない。相互の配慮と敬意は牧会にしかるべき尊厳を与え、神の僕たちを愛と調和という緊密な絆のうちに一致させる。彼らは力と知恵を神に頼るべきであるが、福音の牧師たちは慎重な検討を要求するすべての事柄において互いに協議すべきである。

『それは、ふたりまたは三人の証人の口によって、すべてのことがらが確かめられるためである』(マタイ 18:16)。(サインズ・オブ・タイムズ 1881年1月20日)。

「サタンが天から追い出されたように、人が教会から分離させられるのに値するとき、彼らに同情する者がいるであろう。いつでも神の御霊と健全な諸原則よりは、個々人に感化を受ける部類がいるものである。そして、献身していない状態にあるため、彼らはすぐに悪をなす者の側に立ち、少しも哀れみや同情を受ける価値のないまさにその人々に、それを与えるのである。これらの同情者たちは他の人々に力強い感化力を持っている。事態は歪んだ光の中に見られ、大きな害を及ぼし、多くの魂が損なわれる。サタンは自分の反逆において天使の三分の一を奪った。彼らは御父と御子から向きを変え、反逆の先導者と結合した。わたしたちの前にあるこれらの事実から、わたしたちは最大の注意をもって行動すべきである。特異な思いをもった男女と関わることによって、試練と困惑以外の何を期待することができようか。わたしたちはこれに耐え、麦も一緒に抜くことがないように、毒麦を引き抜く必要を避けなければならない」(教会への証 3巻 114, 115)。

この日を神と共に

This Day with God



4月

4月1日

要求に応える

「今の時を生かして用い、その人に対して賢く行動しなさい。いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりびとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。」(コロサイ 4:5, 6)

心配事をあまり大きにしないようにしよう。そうでないと、絶対に必要不可欠というわけではない多くの心配事に時間が取られてしまう。この問題の深刻さが、説明のできない強烈さでわたしに押し迫ってくる。時は過ぎてゆくのに、多くの教会が主のための働きの準備ができていないばかりでなく、不注意で、無関心な状態であることを示されたとき、わたしは非常に不安になり、この状態を変えるために何を言うことができるだろうか、何をすることができるかと、わたしは問うた。わたしは「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができるか」と言うことができる(マルコ 8:36, 37)。

わたしたちのうちのだれも自分が神と同労者でなければならないことを自覚していない状態だとわたしは思う。多くの人は真の改心が何を意味するのか、何を必然的に含むかについて理解していない。だから今わたしはあなたとあなたの家族にお伝えするが、キリストから離れて滅びつつある魂を救うために最も勤勉な見張りをし、救う努力をする必要があることを彼らにわからせる努力をする厳粛な義務があることに目覚めさせられ、認識させられることができる。毎日万物の終わりがすぐであることを知らないだれかに警告しなさい。

神の聖なるご要求の一点一画といえども、準備のできていない人に応じるために変更されることはない。神の聖なるみ言葉は、決して変わることも消し去られることもない。世は自分たちの罪のうちに眠っている。天と地は消え去るが神のみ言葉は決して消え去ることはない。わたしたちはみな神のみ言葉に導かれなくてはならない。何という働きがわたしたちの前にあることであろう。そしてクリスチャンと公言する者がそれに気づいていないとは。「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう」(マタイ 18:3)。……

この世の生活での些細な事柄の影響に気づいている人が何と少ないことであろうか。神のテストに耐えることのできる人々は、キリストに認められる。神のみ言葉の生きた真理、救う真理は、わたしたちを贖われた者の群れにふさわしくする。神はわたしたちが道徳上の卓越さの価値を認めるように助けて下さる。精練された精神の特質、清められた精神は、オフルの金よりもっと価値がある。神との真の道徳上の立場を形成するのは生涯の働きである。愛する兄弟姉妹方、教訓と模範によってこのことを教えなさい。(オーストラリアシドニーのサニタリウムでバーデン夫妻へ、1903年4月1日)

4月2日

天の評価

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ 12:1)

品性の測定は絶えず行われている。神の御使たちはあなたの道德上の価値を見積もっており、あなたの必要を確かめており、神にあなたの問題を持って行っている。わたしたちは神の御霊の思いに応じるためにどれほど熱心に努力しなければならないことであろうか。そして、ああ、救うのに力強いお方の上に助けが課せられていることを、わたしたちはどれほど感謝すべきであろうか!……

あなたはいらだちをあらわしたり、軽率な言葉を口に出したりするであろうか。自尊心に満たされているだろうか。貪欲な思いや行為をしているだろうか。神のご目的に対してははっきりと反対のことをしているだろうか。あなたのタラントと心を天父に与えないことによって、このお方のものを盗んでいるだろうか。このようなことをするのをなぜやめないのか。なぜ神に自分を完全に明け渡さないのか。このお方はあなたにご自分の光と平安を分け与えられ、あなたはこの方の救いを味わうのである。これ以上神に不具で病気のささげ物を持ってきてはならない。あなたの精神と肉体の力はあなたが違反をする推移によって弱まるが、そのようなささげ物は神に受け入れられない。来て、あなたの弱さをなおしていただき、傷のない生きた聖なる犠牲をささげようではないか。あなたは神から什一とささげ物を奪ってきたらどうか。ここにあなたへの助言がある。「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる」と主は言われる(マラキ 3:10)。なぜ主が言われたことをそのまま信じないのか。キリストの喜びを経験するのはわたしたちの特権である。

キリストはわたしたちの慕うべき美しさも見るべきすがたもなく、乾いた土から出る根のように育ったという、この方についての豊富な知識を味わってきた人々を納得させるのは困難なことであろう。しかしこのお方はわたしたちのたましいにとって「万人にぬきんで」、「ことごとく美しい」お方となることができる(雅歌 5:10, 16)。わたしはこのお方を愛する。このお方を愛する。わたしはイエスのうちに計り知れない魅力を見る。この方のうちに人の子らが望むべきすべてのものをみる。「世の罪を取り除く神の小羊」のところへ来よう(ヨハネ 1:29)。このお方の功績と義によって天にふさわしくなろう。悔いなくおれた心をお方は見下げられない。(ビュー・アンド・ワールド 1889年4月2日)

4月3日

真理の勝利

「あなた自身を良いわざの模範として示し、人を教える場合には、清廉と謹厳とをもってし、非難のない健全な言葉を用いなさい。」(テトス 2:7, 8)

真理の勝利はそれを信じる人の感化力にかかっている。個人的な働きによって、よく秩序だった生活によって、敬虔、信仰、そして優しい同情によって、わたしたちは真理を推し進めるべきである。わたしたちには勝ち取るべき天国がある。打ち勝つ者には最高の報いが提供される。わたしたちがしばむことのない命の冠を手に入れることができるために一生懸命はしる気持ちになるようにと、わたしたちの前に永遠の重い栄光が差し出されている。

打ち勝つことを決心する人には、その人の前に免除されることのない闘いがある。その人は信仰の良い戦いをおおしく戦わなければならない。彼は日々純潔と道徳上の卓越を求めつつ、律法に従って努力しなければならない。彼がキリストをあらわすことができるために神はこのことを彼に要求される。彼は神のみ約束を信じ、自分には引き出す無尽蔵の宝があることを周囲の人々に示しつつ、キリストを信頼しなければならない。その人の言葉は正しい言葉であり、その精神も正しい精神でなければならない。彼の手は、神が自分にするようにと与えられた働きを行うにあたって、決して弱くなつてはならない。彼は試練にあうであろうが、つねに勇敢で快活でなければならない。不公平や偽善ではなく、すべての人をキリストの血で買い取られたものとして扱わねばならない。聖霊が彼の助け手である。彼を力づけるキリストによって彼はすべてのことを負うことができる。…… 神が委ねられたタラントはそれに比例した返却を要求される。神は「持たないところによらず、持っているところによって」受け入れられる(コリント第二 8:12)。神は五タラント持っているものに期待されることを一タラントしか持っていない者に期待はされない。もしも金持ちがこの世の魅力的なことを楽しむためにあらゆる利己的な欲望を満足させることを選ぶなら、それゆえに裁かれるであろう。彼らはへりくだった服従によってキリストをあがめ、このお方の十字架を掲げることを拒むのである。このようにして神を辱めるので、神は「わたしを尊ぶものをわたしは尊ぶ」と宣言される(サムエル上 2:30)。……

自分の責任についての厳粛な自覚をもって、自分のタラントを忠実に用いる人々だけが、その堅固な忠実さのゆえに、大いなる働きをする。……神の働きを推進することによって自分に貸し与えられた賜物を賢く向上させることにより、神に栄光を帰す人々だけが神の御目に偉大な人々である。(原稿 53 ページ 1899 年 4 月 3 日「サンタリウムに関わっている人々への勧告のことば」)

4月4日

描写できない栄光

「いにしえからこのかた、あなたのほか神を待ち望む者に、このような事を行われた神を聞いたことはなく、耳に入れたこともなく、目に見たこともない。」(イザヤ 64:4)

あなたは新エルサレムに関することを描写するようにとわたしに望まれるが、わたしはその種のことは何事もはっきりとお断りする。わたしの能力はこれをするには不十分であり、これに近づくことすら無理であるので、それが新エルサレムの描写であると印象付ける特別な描写をしたものを持つとするとどのような企てもしないようにと、わたしはあなたに忠告する。新エルサレムについての最も雄弁な描写はそれを示そうとする試み……以外のところにある。

未来の見えない世界に関係している人はだれであってもパウロの「目がまだ見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(第一コリント 2:9) という言葉を引用することによって、その言い表せない栄光の特徴をもっともよく述べることができる。多くの人があたかも自分の有限な能力が聖なることを見てとることができるかのように、聖なる事柄に近づいているようにわたしは感じる。……

わたしたちが聖なる永遠の事柄に関して人々に提供する声明においてさえ、わたしたちが非常に注意している聖なる地を清められていない足でふみつけるひとがたくさんいるが、それは有限で平凡な考えが聖なる清い考えと入り混じるからである。人はじぶんに委ねられ啓発された能力をもちいて、天国の何かを描写しようと試みるのであるが、全体として失敗する。

あなたの芸術家としての能力は、その最大限度にまで伸ばされるとき、見えない世界の事柄を取り入れようとするときにおぼろになり、疲れ果ててしまう。そして永遠はまだその向こうにあるのである。これらの申し立てによって、あなたは、わたしが偉大なる芸術家のみわざに関する何を何であっても描写しようと試みることを辞退させて下さるであろう。

新エルサレムの栄光を熟考するために人々の想像を最高に広げさせなさい。それでもなお彼らは忠実な克服者が気づく永遠の重い栄光の境界線にやっと入ったところである。あなたが立っているところは聖なるところであるから、あなたの足から靴を脱ぎなさい。これがあなたの質問に答えることのできる最上の答えである。(手紙 54、1886年4月4日スチュアート姉妹へ)(新エルサレムについての記述をするようにとエレンホワイトに頼んだ芸術家スチュアート夫人への答えより)

4月5日

天の保証

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(マタイ 7:7)

ああ、どの人も、今でさえ、心からの祈りによって、天の約束された休息がどれほど魂に保証されているかを個人的経験によって知ることさえできるならよいのだが。もし人が、この教訓を学んでいないなら、キリストの学校でこの教訓をどのように習得するかを学ぶまで、人生のあらゆるほかの教訓を学ばない方がよい。

わたしたちはクリスチャンとして毎日新しい生きた経験を望んでいる。わたしたちはどのようにイエスを信じ、このお方にあらゆることを打ち明け、信頼するかを学ぶことを望んでいる。ヤコブは弱さと欠陥の人から、祈りのうちに神を信じる信仰を通して、神の王子となるために起こされた。彼は信仰によって打ち勝った。神は全能である。人は有限である。神との会話のうちにわたしたちは魂のもっとも密かな事柄を神に打ち明けることができる。なぜなら、神はそのことをすべて知っておられるからである。しかし人に打ち明けるべきではない。……

あなたの力強きの源であるお方から、不注意に離れてはならない。あなたの考えを見張り、言葉を見張り、あなたがしようとするすべてのことにおいて、神に栄光を帰すようにしなさい。あなたが十字架の下により近くひれ伏すほど、あなたはイエスの計りしれない魅力とこのお方が墮落した人間のために立証された比類のない愛を見るようになる。……

仕事のプレッシャーがあなたを神から引き離すことのないようにしなさい。なぜなら、もしあなたが勧告やはっきりとした予想また鋭敏な考えが必要なときがあるとすれば、それはあなたがたくさんの仕事を抱えているときだからである。そうであればあなたは祈り、信仰を増し加え、医師の長であるお方の勧告を絶対的に信頼するために時間をとる必要がある。このお方に助けを求めなさい。あなたがしなければならぬ働きの重大であればあるほど、もっと頻繁に祈りなさい。……

生まれつきの状態では墮落し失われている人間が、キリストが福音の中で人に与えてくださっている恵み深い助けによって新たにされ、救われることができるとは、何という熟考すべき主題であろう。魂のうちにあるイエスの愛は、人を自分のものにしようとしている敵を追い出す。忍耐強く耐えたあらゆる試練、感謝して受けたあらゆる祝福、忠実に抵抗したあらゆる誘惑は、人をイエス・キリストにあって強い人にする。この恵みはすべて信仰の祈りの中で得ることができる。……

上からの力をつかみなさい。大きな試練に備えて、イエスですら山の寂しいところへ退き、御父への祈りで夜通し過ごされた。(手紙 11, 1886 年 4 月 5 日セントヘレナサニタリウムの医師ギブス博士へ)

4月6日

間違いを訂正

「もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。」(マタイ 18:15)

あなたが過ちに陥っていると思う人のところへ行くとき、柔和でへりくだった精神で話すように気をつけなさい。なぜなら、人の怒りは神の義をもたらさないからである。間違っている人は、柔和と寛容そして優しい愛の精神による以外に回復する他の方法はないからである。話し方に気をつけなさい。自尊心や自己満足の感じがするあらゆるまなざしや動作、言葉や声の調子を避けなさい。あなた自身を高めたり、相手の失敗に対比して自分の善や義を示して自分を高めようとする言葉や様子をしたりしないよう、あなた自身を守りなさい。見下したり、横柄であったり、軽蔑したりすることからもっとも離れた態度で接するように気をつけなさい。注意して、怒っているという印象をことごとく避け、率直な言葉を用いても、譴責や、きつく責める言葉、腹立ちの気配はないようにし、ただ熱心な愛のしるしだけがあるようにしなさい。

とりわけ憎しみや悪い意図の影がないようにし、表現に皮肉や激しさが無いようにしなさい。親切とやさしさ以外の何ものも愛の心から流れ出ることはできない。しかしながら、これらの尊い実のみならず、あなたも御使たちがその目をあなたに向け、あなたが来るべき審判にふさわしく行動するために、もっともまじめで厳粛な方法であなたが語るのを妨げる必要はない。

譴責の成功は、その譴責が与えられる精神に大いにかかっていることを心に覚えていなさい。あなたが控えめな思いを持つことのできる熱心な祈り、神の御使があなたの前にあるその心に働きかけることのできる熱心な祈りを怠らないようにしなさい。あなたは那人々の心に届こうと試みており、あなたの努力が役立つことのできる天の印象によってやわらげられるようにと願っている。もしも何か良いことがなし遂げられるなら、それはあなたには何の名誉もない。神だけがあなたがめられるべきである。神はお一人でそれをすべてされたのである。……

過ちに陥った人を救うためにあなたの努力はみな役に立たないかもしれない。彼らは善に対してあなたに悪をもって報いるかもしれない。説得されるよりも怒るかもしれない。もしも彼らが良くない目的に聞き従い、悪い道を追うなら、彼らは何に従い始めたのであろうか。これはしばしば起こることである。もっとも穏やかな優しい譴責が時には良い効果をもたらさないことがある。その場合には、他の人が悪を行うことをやめ、良いことをすることを学び、義の道を追いかけることによって、あなたがその人に受けてほしいと望んでいた祝福は、あなた自身の懐にもどってくる。もし、過ちに陥った人が罪に固執するなら、彼らを親切に取り扱い、天父に彼らをゆだねなさい。(手紙 30, 1868年 4月6日、ロジャー兄弟と姉妹へ)

4月7日

磁石であられるキリスト

「そこでペテロは口を開いて言った、「神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受け入れて下さることが、ほんとうによくわかってきました。」(使徒行伝 10:35, 35)

キリストは身分制度や国籍をお認めにならない。このお方はご自身の力と喜びにしたがって働くために、ご自身の大権と神性とを伝達できないものとして、それを所有しておられる。あわれみ深いあがないの主はあらゆる階級の中で労された。中風の患者が屋根からあがないの主の足元につり下ろされたとき、主はその苦しむ者の心配を一瞬に見てとり、罪を許す救い主としてのご自分の力をすみやかに働かされた。「元気を出しなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われた(マタイ 9:2 英語訳)

このときある律法学者たちが心の中で「この人は、なぜあんなことを言うのか。それは神をけがすことだ。神ひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」と言った(マルコ 2:7)。彼らは自分の口に出さない考えが自分の前に出されて、なんと驚いたことであろう。「なぜあなた方は心の中で悪いことを考えているのか」とイエスは言った。「イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに言い、中風の者にむかって、『あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ』と言われた。」(同 2:8～11)

キリストは魂のもっとも奥底から自責の念を取りさって、神に対する罪人の関係を変えられた。金持ちの愚か者は自分の慢心した財産の中で死んだが、無力な罪人はキリストの前につれてこられ、キリストが自分を癒すことができるという信仰を表すことにより、彼は失望させられることはなかった。彼の病的な思いがまず癒され、それから大医師は彼の体の虚弱を癒された。

このようにしてキリストは人々をご自分に引き寄せられた。このお方は最高の秩序をもった真理を開かれた。このお方が分け与えた知識は、その中に富と力がすべて入っている福音であった。罪を負う方は罪が魂にもたらす恐怖すべてに気づいており、解放のメッセージをたずさえて、この世に来られた。

キリスト教とは何であろうか。罪人の改心のための神の道具である。イエスはご自分の支配のもとに連れて来られていない一人一人に、カルバリーの十字架の感化を自分の人性の中で証明していない一人一人に説明を求められる。キリストはご自身が十字架上で死ぬことによって贖われた人々によって高められるべきである。(原稿 56, 1899年4月7日「キリストにしたがって」)

4月8日

教を証する

「イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。(マタイ 28:18 ~ 20)

真理についての知識とこの知識がもたらす祝福をもつ本拠地にいる人々は、新しい地で労している人々の必要とそこでの働きが困難で設備が少ししかないことを覚えていなければならない。……

マタイ 10 章で与えられた教訓は、主が、ご自分のために新しい地で働くために出て行く人々をどのようにみなしておられるかを示している。この章を読みなさい。使命者が会わねばならない危難に関して、彼らが耐えなければならない苦難に関してキリストがなんといわれたかを研究しなさい。キリストは弟子たちに「だから」と言われた(マタイ 10:16)。今日新しい地で労する人々にはおおくの試練と直面する困難がある。彼らは、働くための施設が豊かでもっとたやすく収入が得られる本拠地にいる兄弟の助けと同情を必要としている。

弟子たちに対するキリストの最後の言葉は、真理を広める働きに採用しなければならない重要なことを示している。昇天の直前にキリストは弟子たちに「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。という任務を与えられた(同 28:19, 20)。

キリストはご自分の働きを一箇所に限定されなかった。このお方の働きについては「『わたしは、ほかの町々にも神の国の福音を宣べ伝えねばならない。自分はそのためにつかわされたのである』と言われた。そして、ユダヤの諸会堂で教を説かれた」と書かれているのを読む(ルカ 4:43, 44)。

真理の光をもっているすべてのものは、キリストが与えられた模範にしたがつて、真理の光が世界中に行き渡るべきときに、一ヶ所か二ヶ所で、神があたえられた時間と能力と財産を費やしてしまうのであろうか。福音のメッセージの中で示されている恵みのおどろくべき表示は、すべての場所に運ばれなければならない。(手紙 92, 1902 年 4 月 8 日(医事伝道の働きで責任ある立場にいる兄弟へ))

4月9日

新しい命を生きる

「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である。」(マタイ 7:12)

キリストは自分と、神と同胞との関係を知って信じるだけでなく、行う義務もあることをわたしたちに教えるためにこられた。公正についての黄金の義務は、他の人々が自分にすべきだと思うように、わたしたちが他の人々にすることを要求する。わたしたちは「彼らは救い主の血で買われた者、値を払って買われた者である」と自分に言い聞かせつつ、他の人々の永遠の利益を視野に入れ続けなければならない。

わたしたちの同胞に対するふるまい全般において、その人々が信者であろうと未信者であろうと、キリストが人々を扱われたように、わたしたちのところにお方がおられるかのようにその人々を扱うべきである。もしも神の律法に従うことがわたしたちの現在と未来にとって良いことであるなら、これをするはその人の現在と未来にとっても良いことである。わたしたちの最高の目標はキリストのご命令に従って、その人々に対する医事伝道者になることである。……

真珠の門を通して神の都に入るすべての人は、自分の振舞いすべてにおいてキリストを示してこなければならない。彼らをキリストの使命者、証人にするのはこれである。彼らはあらゆる邪悪な行動にたいして、その人々に世の罪を取り除く神の小羊を指し示しつつ、はっきりとした間違いようのない証をになうべきである。キリストはご自分を受け入れるすべての人に神の子となる力を与えられる。

改心が、わたしたちが聖なる都に到達することのできる唯一の道である。この道は細く、わたしたちの入る門は狭いが、この道に沿って、救われるために男女子供を教えつつ導かなければならない。彼らは新しい心と新しい霊をもたなければならない。品性の古い遺伝的な特徴に打ち勝たなければならない。一切の欺き、偽ること、悪口を捨て去らねばならない。男女をキリストのようにする新しい生涯を生きるべきである。わたしたちは、いうならば、悪の潮流に逆らって泳がなければならないのである。

天国への道は狭く、エホバの神聖な律法の生垣によって垣根が作られている。この道に従っている者はたえず自己を否定しなければならない。キリストのみ教えに従わなければならない。……人を信頼しないで、わたしたちを義に勝ち取ることのできるために死なれたイエス・キリストを信頼しよう。(手紙 103, 1905 年 4 月 9 日、パラダイス・バレー・サタリムの代表者バレンジャーへ)

4月10日

保護の盾

「彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。」(ヨハネ 1:11)

ご自身の血で人類家族を買われたキリストは、ご自分の子に加えられたいかなる侮辱もご自身になされたものとして責められる。このお方の律法はご自分を信頼するすべての魂のうえに神の保護の盾を広げるためにある。

キリストの弾劾、断言された災難にはもっとも深い悲しみの表現が続いた。
.....

十字架上の処刑の直前、キリストはエルサレムを見つめて「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら」と言いつつ、この町のために泣かれた(ルカ 19:42)。それから黙られた。そのとき彼らはオリブ山の山頂に来ていた。弟子たちはエルサレムの魅力的な光景に賞賛の叫びをあげそうになったが、自分たちの師が喜びをあらわすかわりに、涙にむせんでおられるのを見た。

キリストはご自分の伝道の終局へと近づいており、そのときがいつ来るか、エルサレムの猶予の日がいつ終わるのかを知っておられた。しかしこのお方は罪の宣告の言葉を発するのは気が進まなかった。このお方は三年間実を探しておられたが見つからなかった。この間キリストの魂にいつも一つの目的、すなわちご自分の感謝しない不従順な民の前に、厳粛な警告と天の恵み深い招待があった。このお方は民がご自分の言葉を受け入れることを心から願っておられた。

キリストはなんと恵み深く民を招待されたことであろうか。ご自分が唯一の希望、約束されたメシヤであるという悟りを彼らの心に呼び起こそうと、どれほど熱心に労されたことであろうか。……キリストの生涯の働きは、ご自分が彼らの唯一の希望であることを不従順な民に確信させることであつた。このお方はご自分の民を懐にたずさえゆき、彼らを救うためにできることはすべてされた。しかしこの世でのご自分の働きの終わりに「しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようともしない」と、涙ながらに言わざるを得なかった。

神の憤りの雲がエルサレムの上に集まってきていた。キリストは街が包囲されているのを見、この町が失われるのを見た。涙にむせんだ声でキリストは「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの目に隠されている」と叫んだ(同 42)。

今日同じ立場にいる人々、神の恵みのメッセージを拒んでいる人々に……この弱々しい表現を提供する。(手紙 317A, 1905年4月10日、伝道と医事伝道にたずさわる兄弟たちへ)

4月11日

神の威厳

「万軍の神、主よ、主よ、だれかあなたのように大能のある者があるでしょうか。……あなたは海の荒れるのを治め、その波の起るとき、これを静められます。」(詩篇 89:8, 9)

昨日(チャールズ)チテンドン兄弟がわたしたちを大勢自分の船に乗せて海に連れ出した。……わたしたちは一日中水の上と海辺におり、金門橋から太平洋へと出た。……波が高く、わたしたちは非常に高く上がったり下りたり波にもてあそばれた。……波しぶきがわたしたちにかかっており、油断のない船長は命令を与え続けており、それに従う準備のできている助け手があった。風は強く吹き荒れ、わたしは人生の中でこれほどの思いをしたことはなかった。

今日私はキリストが海の上を歩き、嵐を鎮められたときのことを書く。ああ、この光景は私の思いになんと強い印象を与えたことか。……神とこの方のみわぎの威厳が私の考えを占めてしまった。神は御手で風を抑え、水を支配される。神の御目にわたしたちは太平洋の広大な深い水の上のたんなるしみのような有限な存在であったが、なみのうでゆれて傾いている小さな帆船を守るために、天の御使たちが神のすばらしい栄光の座から送られた。……

弟子たちを乗せた舟が波にもまれていた様子がなんと鮮やかにわたしの思いを捕らえたことであろう。夜は暗く大嵐であった。弟子たちの主はおられなかった。海は荒れ狂い、風は逆巻いていた。彼らの救い主イエスが共におられたなら、弟子たちは安心感があったであろうに。長いうんざりする夜の間じゅう、彼らはオールにかがみこんで、風と波に逆らって自分たちの道を押し進んでいた。彼らは危険と恐怖に取り囲まれていた。この弟子たちは苦難や危機にはなれており、危険な目にあつてもたやすくおびえることはなかった。

彼らはある指定された場所で救い主に乗船していただくはずであったが、この方がおられなければどうやってその地点へ到達することができるであろうか。すべての努力はむなしく風は彼らに逆らっていた。こぎ手の力は使い果たされたが無慈悲な嵐はやわらわず、船と彼らを飲み込むかのように波を激しく打ちつけていた。ああ、弟子たちはどれほどイエスを思い焦がれたことであろうか。

彼らの最大の危機のそのときに、彼らが夜更けの稲妻のただ中ですべてを失うとあきらめたときに、イエスは水の上を歩いて彼らのところにあらわれた。ああ、それではイエスは弟子たちを忘れてはおられなかったのだ。やさしい同情とあわれみ深い愛のまなざしは、その恐ろしい嵐の間じゅう彼らを油断なく見守っておられた。彼らがもつとも必要としたときイエスは彼らのそばにおられた。(手紙 5、1876年4月11日、ジェームス・ホワイトへ)

4月12日

親切、一つの徳

「父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。」(エペソ 6:4)

神は信者に、過ちを見つけだすのをやめ、軽率な不親切な言葉を出すのをやめるようにと訴えられる。両親がた、あなたが子供たちに話す言葉は親切で感じのよいものになさい。それは天使が子供たちをキリストに引き寄せるにあたって、あなたの助けを得ることができるためである。家庭教会に完全な改革が必要である。すぐに始めよう。全員が不満を言ったり、いらいらしたり、がみがみ言うのをやめよう。いらいらしたり、がみがみ言ったりする人々は天の御使を閉め出し、悪天使に扉を開くのである。

夫も妻も、自分たちは意見の相違が入り込んでくるのを許すことによって、自分たちの生活をみじめにすることなく、十分に重荷を負うことはできないことを覚えていよう。ささいな相違に場所を与える人々はサタンを家庭に招いている。子供たちはつまらないことで口論する精神をつかむ。悪天使は、両親と子供たちが神に対して不忠実になるようにと自分たちの役割を果たす。

兄弟姉妹がた、あなたは平和と調和のために働いている神の共労者ではなからうか。聖霊のかぐわしい形づくる感化力を求めていのりなさい。あなたの唇を親切という律法に治めさせなさい。不機嫌な、礼儀にもとる親切でないことを拒みなさい。あなたの信仰の告白に誠実でありなさい。……

あなたがキリストのくびきを負うことに同意するとき、「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」(マタイ 11:29) という招待に聞き従うとき、あなたは他の人の首にくびきを結びつけるのをやめる。あなたは過ちを見つけだすのをやめ、もう他の人と違っていることを徳とは考えない。あなたは自分が同意できる点を考えるようになる。

わたしたちは主が力と栄光をたずさえて、天の雲に乗ってこられるとき、主にお目にかかる準備をしている。この広大で気高い働きの中で、わたしたちは互いに助け合わねばならない。両親は自分が家庭にもちこむことのできる日光と心地よさをすべてもちこまねばならない。親切なことばと行為で、家庭を日光で満たすべきである。……

厳しい不親切な精神をあらわすことによって神の敵に仕えてはならない。不親切にまた厳しく話したり、行動しようとしたりする誘惑に打ち勝つ人々だけが天国に入る。キリストの思いを行動にあらわし、キリストの言葉を語りなさい。そうすれば聖霊によって主イエスはあなたの家庭の客となられる。(手紙 133, 1904年 4月12日、エドソンとエマ・ホワイトへ)

4月13日

キリスト命の糧

「信じる者には永遠の命がある。わたしは命のパンである。あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」(ヨハネ 6:47～51)

神のみ働きをすることができるために何をすればよいのだろうかという質問がある。わたしたちは天国を得るために何をすればよいであろうか。この重要な質問は、知りたいと願うすべての人に、「神がつかわされた者を信じるのが、神のわざである」と答えが与えられる(ヨハネ 6:29)。……なぜなら「神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」(同 33)。「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない」(同 35)。

キリストは人がこれらのことを理解するために神について教える必要があることを彼らに告げられる。これが今日の教会内で聖書についての知識が非常に浅い原因である。牧師はみ言葉の一部分だけを説教し、自分が教えるその範囲ですら実行することを嫌がる。このことがみ言葉と教理の誤解へと導き、誤りと聖書の解釈の誤りを作り出す。……

わたしたちは真理をはっきりと知るために人に教えてもらうことはできるが、神だけがその真理を救いとして受け入れるようにと心に教えることがおできになる。その真理は永遠の命のみことばを良い正直な心の中に入れるためである。主は教えるを受ける気持ちをもっているあらゆる魂を教えようと、忍耐強く待つておられる。快く教えてくださるお方、世がかつて知ったうちでもっとも偉大な教師であるお方の側に責任はない。責任は自分自身の印象と考えに固執し、人間の理論を捨てようとせず、謙遜のうちに教えるを受けようしない生徒の側にあるのである。そういう人は自分の良心と心が教育され、鍛錬され、訓練されることを許さない。すなわち、農夫が地を耕すように、あるいは、建築家が建物を建築するときのように、自分に働いて下さることを許さないのである。……

一人ひとりが神のかたち似たものにされ、形づくられ、造りだされる必要がある。親愛なる友よ、キリストは老いも若きも、あなた方に「人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない」との永遠の真理を語っておられる(同 53)。

もしもあなたがキリストのみ言葉をあなたへの忠告として受けなければ、あなたはキリストの知恵も霊的生涯もあらかずことはない。(手紙 88, 1900年4月13日、アボンデール校の管理者と教師へ)

4月14日

主の使命者であれ

「そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。」(マルコ 15:15, 16)

神の働きの中で、働き人は、イエスが70人の弟子たちに与えられた指示と彼らの経験から貴重な教訓を学ぶことができる。この弟子たちはイエスご自身がのちほど行かれる町々、村々へ、イエスの働きに関心を呼びおこすために送られたが、それはイエスが人々に分け与えたいと思われる広大な真理を人々が受け入れる準備ができるためであった。……

「その後、主は別に70人を選び、行こうとしておられたすべての町や村へ、ふたりずつ先におつかわしになった。そのとき、彼らに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。さあ、行きなさい。わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである。」(ルカ 10:1～3 英語訳)。

「どの町へはいつでも、人々があなたがたを迎えてくれるなら、前に出されるものを食べなさい。そして、その町にいる病人をいやしてやり、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい」(同 8, 9)。

これが弟子たちのメッセージの重荷でなければならなかった。彼らはこのメッセージの見解を見失ってはならず、本質的でない事柄で論争に入ってはならず、イエスが教えるようにと自分たちに命じられた重要な真理に対して扉を閉じることもしてはならなかった。彼らはキリストの伝道と働きについての預言を説明し、人々の心を和らげる真理を提供して、旧約聖書から教えるべきであったが、それはキリストがあとで行かれるときに、このお方を受け入れる準備ができるためであった。……

この70人は、12弟子のようにイエスといつも共にいたわけではなかったが、度々イエスの教えの教訓を聞いていた。彼らはイエスご自身が働かれているように働くために、この方の指示のもとに派遣された。行くところどこでも「神の国はあなたがたに近づいた。神のメッセージと使命者を受け入れる人はすべて神の国に入ることを許される。これはあなたの訪れの日である」というメッセージを響き渡らせなければならなかった。弟子たちは、人々が自分の手の届く範囲におかれた祝福をつかむようにと導かれるような方法で、神の真理を提供しなければならなかった。(手紙 119, 1905年4月14日、ナッシュビル教会の教会員へ)

4月15日

あなたを守る

「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう。」
(黙示録 3:10)

これらのみ言葉は重要であり、また厳粛であって、家に持って帰って、その真の意味に関して聖書を探ることは、わたしたちにとって有益である。地に住む者を試みるために、誘惑のときが全世界に来なければならない。そしてわたしたちは自分自身のために患難のときがあるのを望まないけれども、また未来の試練に不平をもらしはしないが、それが来るとき誘惑に陥らないために、神と密接につながっていなければならない。「あなたがたのうち主を恐れ、そのしもべの声に聞き従い、暗い中を歩いて光を得なくても、なお主の名を頼み、おのれの神にたよる者はだれか」(イザヤ 50:10)。

主は敵にむかって、わたしたちのために基準を掲げられる。わたしたちは神のうちに助け手がいることを信じるべきであるが、それはわたしたちが恐れなくておどろきと感嘆に満たされるためである。なぜならイスラエルの神はごく初めからご自分の民と共におられたから、すなわちこの世界が赤子であったときから、ご自分の従順な子らと共におられたからである。わたしたちは、自分が神を信頼していることを示し、神を信じているから信頼することができることを世に示さなければならない。神のみ言葉は、わたしたちに誘惑は降りかかるが、わたしたちを支えるために助けが用意されていると誓っている。……

この終わりの時代に試練が来ることをわたしたちは予想しており、他の何かを求めているわけではないが、試練が来るときそれに耐えることができ、迫害のもとでくじけてしまわないよう、神がわたしたちに恵みを与えてくださることを祈る。わたしたちはそのときになって、力がないような立場にいたいとは思わない。そうであれば、いま神を知る者になろうではないか。……

神は右手や額に獣の刻印を受けない民を持っておられ、ご自分の民をこの世で満ちし、光を反映させる場所を持っておられる。あなたがたは神の見張り人である。キリストは「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない」とご自分の民に言われる(マタイ 5:14)。……神はご自分の律法を全宇宙のために作られた。神は人を創造し、自然の豊かな食糧を与え、わたしたちの息と生命をみ手のうちに保っておられる。地上の偉大な人々や最高権力者の前に、このお方が認められ、このお方の律法があがめられなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年4月15日)

4月16日

あなたが受けたように与えよ

「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」(マタイ 10:8)

思いがけないタラントが人生の歩みの中で発達する。もしも男女が自分にもたらされた真理のメッセージを持っていることさえできるなら、その真理を聞く多くの人が受け入れるであろう。世間のあらゆる階級の人々身分の高い人も低い人も、金持ちも貧乏な人も現代の真理を受け入れるであろう。教育を受けていないとみなされているある人々が主の奉仕に召される。ちょうど身分の低い学問のない漁師が救い主に召されたように。エリシャが召されたように、男性が鋤をつかう場から召され、神が任命された働きにつき始める。彼らは他の人々に聖書を読み聞かせつつ、静かに飾り気なく取り組みはじめる。彼らの単純な努力は成功する。

戸別訪問の働きは、主がご自分の御霊を自分たちに与えてくださるので、主のために働くことができるということに気づく男女によってなされる。彼らがへりくだった信仰のうちに生きていくとき、キリストは彼らが他の人々に分け与える恵みを彼らに分け与えてくださる。主は昔の弟子たちに与えられたのと同じ愛を、滅び行く魂のために彼等に与えられる。

将来、天使がその人々を通して働くことのできる人々が真理を受け入れる。過去において天の使命者は、魂の砦にとどく説得力のある論拠をそなえた言葉の力と感化力を人間に与えつつ、その人々と協力して働いた。見たところ教養のない無学な人々の働きがしばしば善のためにおどろくほどの感化力を持っている。……

義の太陽からの神聖な光線を捕らえる人はだれも、ふさわしい言葉に不足することはない。その言葉は世の人々が雄弁だと考える雄弁ではなく、天来の雄弁である。彼らは聞く人に罪の自覚を起こさせ、真理とは何かと尋ねさせつつ、魂へ直接働きかける言葉を語る。……

もしもあなたがイエス・キリストによって神との聖なる家族関係に連れてこられた、救う恵みの僕であることに気づき、魂の救いのために働くよう任務を与えられたことに気づいて心にとめるなら、あなたはこの広大で聖なる働きのなかで善のための感化力をきつと及ぼすと言いつつ、わたしたちはそのような働き人を励ますことができる。(手紙 123, 1905年4月16日、ニューヨークコンファランスの代表者 S・H・レーン長老へ)

4月17日

その日のための力

「あなたの力はあなたの日と共に続くであろう。……とこしえにいます神はあなたのすみかであり、下には永遠の腕がある。」(申命記 33:25 ~ 27 英語訳)

天父のわたしに対する日ごとの祝福をわたしは御父にほんとうに感謝している。一週間前わたしは書き物をする努力がまったくできなくなってしまうと感じた。思考力が働かず、失望に陥ってしまい、ふたたび気持ちがやすまる希望をほとんど失ってしまった。しかしある夜、わたしは神にこのお方の力づけ、いやす力がわたしに宿って、出版すべきものを書くことができるようにとほんとうに熱心に祈った。それから眠りについた。夜中にわたしはいろいろな会衆に、癒しに関して、聖霊の活気づける力に関して話しているように思えた。二時半に目を覚ましたとき、わたしの頭痛は消えており、神の御霊の気持ちを落ち着かせる力がわたしに宿っていた。わたしが部屋の床を歩いて神をほめたたえ、手にペンを取ったそのとき、わたしの思いははっきりとしており、以前と同じように書くことができることに気がついた。この経験以来わたしは非常にたくさん書いている。わたしたちの救い主は世界中でいちばん腕のいい医者であられる。救い主がこのときわたしに与えてくださった著しい祝福のゆえに、わたしは主をほめたたえる。

真の宗教は神の誉れと栄光をたえず視野に入れている宗教である。わたしたちは天父を聖なるおそれと崇敬の念を持って注視すべきである。御父はご自分の血をもって買われた相続財産に心からの従順を要求される。わたしたちがこのお方の大いなる愛に気づくとき、わたしたちの心に感謝が湧いてきて、喜んでまた堅固にこのお方に仕え、このお方にまったく信頼する。

わたしの生涯の奉仕のなかで、わたしはキリストの喜びをあらわしたい。キリストの御霊を吹き込まれたいと願うが、それはわたしが他の人々にとって祝福となることができるためである。わたしたちには「わたしは彼らに一つの心と一つの道を与えて常にわたしを恐れさせる。これは彼らが彼ら自身とその後の子孫の幸を得るためである。わたしは彼らと永遠の契約を立てて、彼らを見捨てずに恵みを施すことを誓い、またわたしを恐れる恐れを彼らの心に置いて、わたしを離れることのないようにしよう」という約束がある(エレミヤ 32:39, 40)。

神「の計りごとは大きく、また、事を行うのに力があり、あなたの目は人々の歩むすべての道を見て、おのおのの道にしたがひ、その行いの実によってこれに報いられます」(同 19)。(手紙 139, 1904 年 4 月 17 日、イリノイ実行委員会の教会員ロバート・ビッキーへ)

4月18日

神とのたえまない交わり

「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」(マタイ 24:44)

わたしたちは永遠の世界との境界線のそばにいとわたしは信じており、神とのたえまない交わりをつづけるよう努力している。わたしは永遠の命を重んじており、何者も私を神の愛から引き離すことはない。わたしはキリストから霊的力を引き出すために、自分の魂をたえずキリストに頼るよう教育し、訓練したい。神は、私たちがキリストについての経験上の知識をもつようにと思っておられるのだから、わたしたちは意識的にまた無意識の感化で、キリストの恵みを言葉と行動であかしつつ、神の忠実な証人であることができる。

神の働きに携わっている若い人の多くが、わたしの救い主を知らないのではないかと懸念し、しかも大いに懸念している。神が墮落した人のためにしておられる働きのことを考えると、神があわれな墮落した人々を抱き、彼らに道徳力をもたらすこと、神の恵みの内面の働きがあること、品性を変えること、神が人のために用意しておられる住まいに人をふさわしくされること、すなわち、人を神のみ前にいるのにふさわしい者とされ、御使たちの仲間になるのにふさわしくし、神との交わりを保つのにふさわしくされることを考えると、わたしは不思議で理解できない。ああ、地上でイエス・キリストと共に歩む人が新しくされることを、わたしはどれほど切望していることか。……

わたしたちの生涯の働きは、今永遠のために準備することである。わたしたちには地上での自分の人生がどれほどはやく閉じるか、またわたしたちの低い罪深い性質に打ち勝つことがどれほど不可欠であるか、またわたしたちがキリストのかたち一致することがどれほど不可欠であるかわかっていない。私たちに浪費する時間は一瞬たりともない。わたしたちは永遠のために日々準備をする必要があり、わたしたちの一生は永遠の命という恩恵を求めするために、わたしたちに与えられているのである。神はわたしたちに猶予の期間を与えておられるので、もしもわたしたちが70年生きるなら、自分の救いを達成するには、この期間はなんと短いことであろうか。であるから、この期間を神の命で測る期間と比べなさい。わたしたちのテストと証明の短い期間はいつでも終わることができる。そうであれば、わたしたちは新しくされた地での家庭に入るはつきりとした肩書きをどれほど熱心に確保しなければならないことであろうか。

主がわたしにするようにと与えられた働きをすることと、何ものにもこの働きからわたしをそらさせないようにすることが、わたしのつよい願いである。わたしたちは神と一つであるよう努めなければならない。神の関心がわたしたちの関心であり、神の心情と計画がわたしたちのそれとなければならない。わたしたちは罪人に対する神の愛と、ほろびゆく魂を救うためになされた無限の犠牲を知っている。それであれば、この偉大な働きにおいてキリストと結合しようではないか。(手紙 82, 1887年4月18日、エドソンとエマ・ホワイトへ)

4月19日

悔い改めと改革

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。」(ヨハネ 17:17)

主は断固とした改革を要求しておられる。……兄弟たちよ、神から離れたことにたいする真の悔い改めを示しなさい。神に罪の許しがあることを天使と人々に見させなさい。神からの驚くべき力がセブンスデー・アドベンチスト教会を支配しなければならない。教会員のなかに元の状態に戻ることが行われなければならないが、それは彼らが神の証人として、魂を清める真理の権威ある力を証することができるためである。……

真理によって聖化される人々は、真理が、自分たちの生活の中で改革の働きをしたこと、天の世界へ移るために自分たちを準備させていることを示す。しかし、人性のなかで自尊心とねたみが顕著であると推測されるかぎり、キリストは心を支配されず、この方の愛は魂のうちにない。

神性にあずかる人々の生活のなかには、自己高揚にみちびく傲慢な自己満足の精神は十字架にかけられている。その場所にはキリストの御霊が内住し、その生涯には御霊の実があらわれる。キリストの思いをもつことによって、この方に従うものはこの方の品性の恵みをあらわす。

これに満たないものは何人も神に受け入れられるものとしなさい。これより低いものは、天に認められる人々が持たなければならない純潔で聖なる品性を彼らに与えない。人がキリストを着るとすぐ、その人のうちに働くその変化の証拠が精神と言葉と行動にみられる。天の雰囲気はその人の魂を囲む。なぜならキリストがその魂に内在しておられるからである。……

ああ、その人の生活のなかにこの命の原則をあらわす人がなんと少ないことであろう。……「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう」(ヨハネ 6:54～57)。

あなたがたはこのおどろくべき声明を信じるだろうか。キリストのみ言葉を受け入れるのだろうか。あなたが本当にこの声明を受け入れるとき、あなたはキリストの教えにそって真理を実践するようになるとわたしはあなたに告げる。(手紙 63, 1903年4月19日、医療伝道会議の兄弟たちへ)

4月20日

是認されるために研究

「主の僕たる者は争ってはならない。だれに対しても親切であって、よく教え、よく忍び、反対する者を柔和な心で教え導くべきである。おそらく神は、彼らに悔改めの心を与えて、真理を知らせ」（テモテ第二 2:24, 25）

み働きにたずさわっている一人一人がこの聖句を額に入れて、記憶の間にかけておく必要がある。「わたしたちは神の同労者である」（第一コリント 3:9）。そうすればイエス・キリストに魂を勝ち取るためになされる努力に、非常に多くの明らかな失敗はないであろう。一人一人を基礎のところに連れてゆき、彼らを終わりの大いなる日の火に耐える堅固な建物に築き上げる必要があるが、神の聖なる力によらなければ、人の心に達することもその心が砕かれることもない（コリント第一 3:9 - 15 参照）。……

世界に最後のメッセージを伝えるという厳粛な働きにたずさわっている人々に、「御言を宣べ伝えなさい」というパウロの熱心な勧めを心にとめさせなさい。骨相学の科学や人間の推測による産物ではなく、テモテに宛てた靈感の言葉に聞き従いなさい。「神のみまえと、生きている者と死んだ者とをさばくべきキリスト・イエスのみまえで、キリストの出現とその御国とを思い、おごそかに命じる。御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう」（テモテ第二 4:1 ~ 4）。……

福音の奉仕をする牧師は、才気のある説教者や人気のある話し手となるために努力するようにと強く勧められているのではなく、「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように研究しなさい。俗悪なむだ話を避けなさい。それによって人々は、ますます不信心に落ちていき」と命じられている(同 2:15, 16 英語訳)。神のすべての使命者は、これらの言葉に注意を払うであろうか。わたしたちは神の共労者である。そしてもし命の言葉を他人に提供する責任を引き受ける人々が日ごとにキリストのくびきを負うことも、このお方の重荷を持ち上げることもせず、また毎日毎日イエスから学ばないならば、彼らにとって何か別の職業を探す方がよいのである。(原稿 29, 1893 年 4 月 20 日「十字架の下で教訓を学ぶべき働き人たち」)

永遠のための運命

「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。……それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。そこでイエスは十二弟子に言われた、『あなたがたも去ろうとするのか』。シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが生ける神の子キリストであることを信じ、また知っています。』」(ヨハネ 6:63～69 英語訳)

神のみ言葉は従う人々にとっては命の木である。それは永遠の命へと受け入れられる救いの言葉である。この教えに従う人々は神のみ子の肉を食べ、血を飲む。永遠のためのわたしたちの運命は、このみ言葉がわたしたちにもたらす効果にかかっている。み言葉は完全な品性形成に必要な要素を持っている。クリスチャンは彼の生涯が、神の永遠の命の中にあるキリストの命としっかりと結びつけられるほどの緊密な関係で神と結びつくよう命じられている。

キリストはそのすばらしい祈りの中で「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします」と言われた(ヨハネ 17:20)。このお祈りは福音を信じるすべての者が含まれている。「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」(同 21)。お互いに対するわたしたちの一致と愛は、神が罪人を救うためにみ子を遣わされたことをわたしたちが世に証する信任状である。

「わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります」(同 22, 23)。この声明を読むたびに、わたしにはこのことが本当であるにはあまりにも良すぎるように思われる。しかし、わたしはこのみ言葉を受け入れ、信じ、わたしたちがキリストの義の基準に合う状態で与えられる神の満ち満ちた豊かな約束のゆえに、神に感謝する。……

命のみ言葉はクリスチャンがそれによって生きるものである。わたしたちはこのみ言葉から絶えず増し続ける真理の知識を受け入れるべきである。わたしたちはこのみ言葉から、光、純潔、善、そして愛によって働き、魂を清める信仰を得る。わたしたちが贖われ、神の栄光の御座の前に過ちのない者として立つことができるために命のみ言葉が与えられている。人間のために、キリストによって得られたおどろくべき勝利。(手紙 60, 1900, 年 4 月 21 日、エレン・ホワイトの勧告を求めているある青年へ)

4月22日

一致のための処方箋

「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」(マタイ 6:14, 15)

兄弟に対するあなたの感情に関して、あなたにお話ししたいことがある。彼があなたにしたと考えられる侮辱以上に、あなたがあまりに強く感じている危険がある。しかし兄弟よ、もしも彼が本当にあなたに悪いことをしたとしても、あなたではなく、彼こそ苦しんでいる人であるとあなたには思えないであろうか。あなたは今回のことでクリスチャンの紳士として行動し、彼を許してどのような仲たがいがいもすべきではない。……

わたしの兄弟は自分自身が主に大きな負債があり、主の許しと憐れみと愛をどれほど必要としているかを覚えているであろうか。もしもあなたが兄弟の過ちを許さないならば、あなたの天父もあなたのあやまちを許して下さらないのではないだろうか(マタイ 6:15 参照)。……

あなたは全力をつくしてA兄弟と一致するためにあなたの技能を用いるであろうか。彼に兄弟として手紙を書きなさい。あらゆるへだてを壊し、あなたがたの間に何の不和もないようにしなさい。兄弟として愛し、あわれみ深く、礼儀正しくしなさい。わたしはあなたのためにたくさん服用すべきキリストの愛を処方する。この愛はすばらしい癒しの特質を持っているので、大きな変化を起こすであろう。

もしもあなたがあわれみ深いキリストの愛に対してあなたの心を開くなら、全天が喜びをもってあなたを見るとは思わないであろうか。A長老は、この食い違いがあなた方の間で育つかぎり、このことをいつまでも考えるであろうし、またあなたもそうするであろう。しかし、あらゆる敵意の根を掘り起こして、葬り去りなさい。

あなたがA兄弟の本当の動機に関して、間違った見解をもっている可能性がある。だから、あなたは自分が感じるべき以上に感じ、考え、話しているかもしれない。兄弟を誤解しているかもしれない。

あなたが穏やかなきずなで互いに引き寄せるかわりに、許さない精神を抱いていると、サタンは非常に喜ぶ。しかし人に高い価値をおかれるイエスは、兄弟間の不一致を見て悲しまれる。わたしたちがみな、イエスがその生涯の中でわたしたちに与えられた模範のようであることができたなら、わたしは願う。イエスは人間の命を滅ぼすためではなく、救うために来られ、ご自分の力を傷つけるためには決して用いず、祝福するために用いられた。イエスのみ言葉、態度、そしてその働きは神の優しさに満ちていた。イエスの無条件の忍耐を妨げることはできず、復讐心を起こさせることもできなかった。(手紙 46, 1887年4月22日、J. H. ケログ博士へ)

4月23日

明るい側を見る

「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。」(マラキ 3:17)

わたしにはあなたへの励ましの言葉がある。イエスはあなたを愛しておられる。このお方はあなたが滅びないで、永遠の命をもつことができるために、ご自分の命を与えてくださった。だからあなたの目をこのお方に向けて、明るい側を見なさい。暗い側を見るのは、あなたにとって良くない。何がおこつても、忍耐づよくありなさい。あなたはイエスから力をよせ集めることができる。このお方のうちにすべてが満ち満ちているからである。失望があなたの魂に押し寄せても、イエスを見つづけなさい。あなたの無力な魂をこのお方の許に投げ出してしまいなさい。このお方はあなたのために仲保するために永遠に生きておられる。あなたはこのお方の目に尊いのである。関心をもって、小さなすずめをご覧になるお方は、ご自分の試みられ、苦しんでいる子を愛と憐れみをもってご覧になる。

神がわたしたちに訓練を受けさせるのは、わたしたちの現在の幸福と将来の益のためである。神の子らをもつ最大の祝福は、神が送られる訓練である。もしも彼らが神の同労者として、初めから終わりを見ることができ、果たしている目的の栄光を識別することができるなら、導かれるようにと彼らを選ばず以外へ彼らを導くことは決してなされない。

神なる働き人は価値のない材料に時間を費やすことはされない。このお方は尊い宝石だけを、荒々しい角を切り落として、宮殿の外見にならって磨かれる。その過程はつらくて苦しい。キリストは余分な表面を切り落とし、砥石にかけて押し付けるが、それは粗いところがすべてなくなるためである。それからその宝石を光にかざして、その石がご自分を反映しているのをご覧になって、ご自分の宝石箱の中で場所を占めるのにふさわしいと宣言される。……

愛する兄弟よ、いつもイエスを見て、この地上で天国をあなたの生涯に持ち込みなさい。天国への道は細く、道は狭いが、行こうと思う者はみな、細い道を歩いて、その門を通ることができる。わたしたちがついには天国に到着するとすれば、わたしたちの天国はこの地上で始まらなければならない。わたしたちがこの地上で生涯に持ち込む天国が多ければ多いほど、天の故郷での幸福はもっと大きくなる。

神の慈しみと、神があなたを愛してくださったその大いなる愛にあなたの思いをとどめなさい。もしも神があなたを愛されなかったなら、あなたのために死ぬようにとイエスを与えるはずがなかったのである。神のとしえの腕はあなたの下にある。あなたの苦悩すべてに神は苦しまれたのである。「神のとしえの御子を通して与えてくださる力は強い」。(手紙 69, 1903 三年4月 23 日苦悩を受けている青年へ)

4月24日

自然と生命の法則

「愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。」(ヨハネ第三 2)

地上を歩む幾千、幾百万という人が自分自身の間違った一連の行動のために苦しんでいる。キリストがご自身の命を与えてくださった人々が、自然の法則に従うことによって、自分自身の幸福、平安、健康に価値を置くべきではないだろうか。わたしたちは創造と贖いによって主の所有物であるから、生命と健康と純潔の法則を注意深く守りつつ、自分の体をどのように管理するかを研究するようにと神は要求される。

わたしたちは無視することによって、利己的な放縦によって、正直からそれた食欲や情欲によって、自分を生命が残っているのに死んでいく、墮落して不純な、神の御目にいまわしい体にしないうために、自分たちの体を守り、尊重するのはわたしたちの義務である。

ご自分の嗣業に対する神の取り扱いにおいて、神の憐れみと慈愛がどれほど強く、また明るく輝いていることであろうか。……全天がわたしたちの幸福に深い関心を持っているが、それはサタンがわたしたちを支配して、彼の品性に順応させないためである。「見よ、妒のように燃える日が来る。その時すべて高ぶる者と、悪を行う者とは、わらのようになる。その来る日は、彼らを焼き尽して、根も枝も残さない。しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる」(マラキ 4:1, 2)

自然の法則を侮っていることを示すことにより、男女が悲惨と苦しみの土台を据えている。道徳力が弱いために、彼らは情欲のみじめなとりこになっている。ある人々は、自分の歯で自分の墓を掘っており、他の人々は魂と体を汚し、道徳上の汚れという恥ずべき習慣に身をゆだねることによって、頭脳の力を弱めている。これによって彼らは、神の都の門を自分自身に対して閉じているのである。なぜなら、律法にそむいた処罰は、はっきり示されなければならないからである。罰が与えられねばならない。……

この分野において学ばなければならない教訓がある。それをもし学ぶならば、体と思いに健康をもたらす。もし飲食の習慣が知的に人間の支配のもとに保たれるならば、そして彼が神の栄光のために食し、飲むならば、彼の命は長らえる。生きるために食べなさい。食べるために生きてはならない。(原稿 53, 1896年 4月 24日「教育において生理学の知識が必要」)

4月25日

いつも前進

「しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益となるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それ(彼)をあなたがたにつかわそう。それ(彼)がきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。」(ヨハネ 16:7, 8)

サタンが抑えられ、抑制されるのは聖霊の力強い作用を通してである。罪を確信して、人間の同意によって魂からその罪を追い出すのは聖霊である。思えばそれから新しい律法の下に連れてこられるが、その律法は王の自由の律法である。イエスは魂から罪の奴隷のかせを壊すために来られた。なぜなら魂の自由が失われるときだけ罪は勝利するからである。イエスは人間の悲哀と苦悩のきわみにまで到達された。そしてこの方の愛は人をご自分へ引きつける。聖霊を通してこの方は思いをその墮落から引き上げ、永遠の現実にしかりと固定する。人はキリストの功績によって自分という存在の最も気高い能力を働かせ、自分の魂から罪を追い出すことができる。……

わたしたちが神の戒めのうちを歩むとき、主に贖われた者が歩むために敷かれた道に従う。各時代の忠実な人々はこの道を歩み、世の中で光として輝いた。現代の人々から伝えられた光が、闇の中を歩んでいる人々の道に、明るさを増しつつ輝いている。ある人は真理を受け入れ、それを信じて従う。第三天使の使命の光は多くの人の暗くなった思いに浸透した。知恵と慈愛とあわれみの光、そして神の愛はこのお方の聖なるみ言を通して輝いている。わたしたちは父祖がいた場所にいるのではない。この終わりの時代はもっと多くの光がわたしたちの上に輝いている。わたしたちが、父祖がしたのと同じ奉仕をし、同じ働きをするのでは、神に受け入れられ、神に榮譽を帰すことはできない。

神のみ前に罪なしとされるためには、父祖が自分たちの上に輝いた光に従い、忠実に服従したように、今日わたしたちも自分たちの光に従い、忠実に服従しなければならない。わたしたちの天父は、ご自分の教会の教会員一人一人に、与えられた恵みと光に応じて、信仰と実を要求される。神は定められたよりも少ないものを受け入れることはできない。一人一人が自分の上に光が輝く場所に自分の身を置かなければならない。あらゆる光線を宝として取っておかなければならないが、それは天が送られた光輝で他の人々を明るくし、祝福することができるためである。(ビュー・アソド・ハルド 1893年4月25日)

4月26日

クリスチャン兵士

「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。」(エペソ 6:11)

主は、あらゆる誠実な献身した十字架の兵士と共に働かれる。しかし自分の同僚者と無関係に働かなければならないと考える人、自分の判断がもっとも良いと思う人はだれも良い兵士になることはできない。神の働き人は、一人の欠けたところを他の人が補って、一体とならなければならない。……

わたしたちは敵の策略に抵抗することが特権であるその準備をするのだろうか。神のみ働きの聖なる性質と申し開きをしなければならない者として、魂を見守る必要に気づいているのだろうか。わたしたちは「あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか」たえず警戒していなければならない(ローマ 13:11, 12)。

わたしたちは自分たち自身の願いを持たないことを学んでいるのだろうか、それとも自己がまだ非常に意見を求められるので、兄弟との働きの中で自分の判断がもっとも良いとみなすのであろうか。神が柔和でへりくだった者に与えられる祝福を、わたしたちが自分から取り上げるために、自分を最高の者とするのを神は禁じておられる。真に神に栄光を帰す人々は、自分と関わっている人々の働きによって神があがめられるときはいつでも喜びつつ、キリストのうちに自己を隠す。自分をあまりに高く評価する人はだれも神の働きの中で成功することはできない。時間がたつにつれ、優越感が増し、働きの中で兄弟と団結するよりは、一人で働こうと思うようになる。……

自己を高める気持ちはすべてわたしたちから遠ざけよう。キリストが「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」と言われたときに(マタイ 11:29)、与えられた教訓を学ぶことによって、十字架の良い兵士になる準備をしよう。

自分を認識するためにすべての願望を押しつぶしてしまう人は、自分の行動の無我によってもっとも確実に認められる。他の人を助け、励ますために、彼は、何かの方法でだれかを救うことができるためにすべての人にとってすべてのものとなりつつ、自分自身の願望を喜んで捨てる。そのような人はキリストの軍隊の気高い指導者である。(手紙 65, 1900年4月26日、都市の伝道に携わっていたハスケル長老と姉妹へ)

4月27日

わたしたちのメッセージの正当性の立証

「しかし、御霊は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教とに氣をとられて、信仰から離れ去るであろう。それは、良心に焼き印をおされている偽り者の偽善のしわざである。」(テモテ第一 4:1, 2)

定期刊行物や本の出版のために、主がわたしに真理を書くようにと命じられるので、その真理が書き記されるために、主がご自身の無限の力によって、半世紀以上もご自分の使命者の右の手を保護しておられることを教えられた。なぜであろうか。それは、もしも真理が書き記されていなければ、信仰の先駆者たちが亡くなったとき、信仰の浅い人々の中に、間違った意見や危険な誤りを含む教えを真理のメッセージとして受け入れる人がたくさんいるからである。ときに人が「特別の光」として教えることは、実際のところ見せかけだけの誤りであって、麦の中にまかれた毒麦のように育ち、収穫に害をもたらす。そしてこの種の誤りは地上歴史の閉じるまである人々によって好意的に受け入れられる。

誤った持論を受け入れている人々の中に、わたしの書き物から真理の声明を集めることによってじぶんの持論を確立しようとする人々がいる。彼らが用いるその真理は適切な前後関係から切り離され、誤りと混ぜることによってゆがめられるのである。芽を出しすぐに強い植物へと成長していくこのような種はおおくの尊い真理の植物に取り囲まれており、この方法で力強い努力が偽の植物が本物であることを〔偽の植物を本物であるように〕証明するためになされている。

リビングテンプル※で教えられた異端がそれであった。この本の中にある微妙な誤りは多くのすばらしい真理で取り囲まれていた……サタンのもてなやかな詭弁は、聖書の証拠に根ざしている信仰の真の柱の中にある確信を侵食した。真理は「主はこう言われる」というはっきりとしたみ言葉に支えられている。しかし誤りの中に織り込まれているものがあり、詭弁を実証するために聖書をそのもともとのつながりから切り離して用いているが、それはできることなら選民をも惑わすためである。……

心と思いと魂をつくして主を求めるのに、日が過ぎて尊い機会を失ってしまわないようにしましょう。もしもわたしたちが真理をその愛の中で受け入れないなら、終わりの時にサタンが行う奇跡を見てそれを信じるであろう。(手紙 136, 1906年4月27日バトラー、ダニエル、アービン兄弟へ)

※J・H・ケログにより出版された汎神論についての意見を述べた本

4月28日

救いへの案内書

「しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。」(テモテ第二 3:14, 15)

学識ある人々の所説を通して学生にみ言を理解させようと、み言を説明するための人間の多くの発明は誤りである。神は福音を受け入れることを理論によるものとはなさらなかった。福音は人の霊的な食欲を満足させるための霊的食物になる。福音はあらゆる場合にちょうど人が必要とするものである。……

神のみ言葉は教育する本である。しかし多くの人が神のみ言葉を重んじると言いながら他の本を優先する。人間の理論が神にまさって高められる。わたしははっきりと意見を述べ、明確な証を担わなければならないだろうか。神のみ言葉はかつてそうであったように、すなわち人への神のみ声、あらゆる知恵の源、あらゆる真理、あらゆる高等教育とみなされてきたならば、子供たち、若者、両親のみ言葉を、研究するだけでなく、「キリスト・イエスにあつてわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示す」自分たちの教師また案内書としたはずであった(エペソ 2:7)。……

「きたるべき世々に」その時代にはなんとという歴史がひも解かれることであろうか。世の子らは、「きたるべき世々」と使徒が呼んだその永遠の高さと深さを覗き込むことにどうやって耐えることができるだろうか。その「きたるべき世々」について何を知ることができるだろうか。

聖書は教科書であつて、勤勉に探らなければならない。すなわち多くの本の一冊として読むのではないのである。聖書はわたしたちにとって魂の欠乏に応える本でなければならない。この書は研究し、これに従う人を救いに賢くする。食物は食べて消化しなければ体を養うことができないように、生ける神のみ言も、人間のすべての著作にまさって、より高い教育進路における教師として受け入れられないかぎり、また聖書は神の知恵であるからその原則に従わないかぎり、魂に益を得させることができない。……

神は人間を救いの大いなる会社の共同体に受け入れつつ、「わたしは人を精金よりも、オフルのこがねよりも尊くする」とのみ言葉にそつて、ご自身が約束されたことをすべてをなしつつ、ご自身の目的をなし遂げられる(イザヤ 13:12)。(原稿 50, 1898年4月28日「ユダヤ人はしるしを求めらる」)

4月29日

完全な献身

「イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。」(申命記 6:4, 5)

悪天使たちは神と調和して働こうとしなかったので天から追放された。彼らは高められることを望んだので高い身分から落ちた。彼らは自分を高めてしまい、自分の容姿や品性の美しさが主イエスから来ていることを忘れた。墮落した天使たちは、キリストが神のひとり子であるという事実が不明瞭になり、キリストに意見を求める必要はないと考えるようになった。

一人の天使が争闘を始め、天使たちの中で天の宮廷での反乱となるまでそれを推し進めた。彼らはその美しさのゆえに高揚した。

すべての者が、自分たちは個人的に神に自ら進んで従わなければならないという教訓を、このことから学ばねばならない。彼らが心をつくして神を愛するとき、救いに対して賢くなる。彼らは神のみ旨を行い、彼らは主を認め、畏れ、主に仕えるので彼らの光はたえず彼らの栄光となり、光が減ることはない。一人一人がイエス・キリストの僕であり、バプテスマの誓いで厳粛に自分自身をキリストの義で覆うことを誓ったことを熟慮するために、厳粛な働きがそれぞれに与えられている。わたしたちは主イエスの生きた模範を実行しているのだろうか。

信者はみなクリスチャン生涯の戦いで失敗しないために注意して祈らなければならないことを、わたしは指示されている。あらゆる魂は心をつくして日々朝、昼、夜と主を求め、神のご要求を理解するために、思いに神のみ言を熟慮させなければならない。

すべての中で一番大切なことは心をつくして主に仕え、心と思いが主のものになるよう努力することである。勧告を求めて主の許に来る者は、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」というみ約束に備わっている保証をもって、へりくだりのうちに来るならば、みな、自分に必要なその助けを受ける(マタイ 7:7)。……

完全な献身ではじめ、主の特別の指示による主の戒めすべてに対する単純な服従を続けつつ、基準を掲げなさい。神のみ言葉の中に明細に述べられていることはどれも怠ってはならない。(手紙 42, 1910年4月29日、南カリフォルニアの牧師パーソン長老へ)

4月30日

神の指示

「わが子よ、わたしの言葉に心をとめ、わたしの語ることに耳を傾けよ。……それは、これを得る者の命であり、またその全身を健やかにするからである。」(箴言 4:20 ~ 22)

わたしたちは終わりの時代の危機のただ中に生きている。神のみ霊は地上から引き上げつつあるが、兄弟よ、主はあなたを置き去りにされてはいない。あなたの生涯は無駄ではなかったことを信じるようにと、あなたを励ますようわたしは命じられている。兄弟よ、奮起しなさい。主は、あなたのために用意しておられる働きにあなたを導かれる。これ以上失望するという誘惑に身を委ねて敵を喜ばせてはならない。神の真理があなたにとって日光となり命の空気となるようにしなさい。

兄弟よ、あなたは偉大な治癒者と協力しないのだろうか。あなたはあなたの神経と同じく筋肉も働かせる必要がある。……手も足もすべての筋肉組織は動かすように作られている。だからもしもあなたがこれらの組織とまた頭脳の力を調和して働かせないなら、あなたは保たなければならない活力を失ってしまう。

頭脳と同じく体の各部分も用いなければならないことをあなたに伝えるようにと、主はわたしに指示された。その地域について何かできることを見つけ、手足と発声器官を用いることを特別の義務としなさい。……

数年前あなたの働き人の一人がセントヘレナにある施設に来たことを私は覚えている。彼はひじょうに弱くてベッドから起き上がることができず感じていた。彼の担当医はわたしに「ベッドから彼を離れさせて何かの方法で手足と彼の思いを使わせなければ彼に望みはありません」といった。その患者に何かについて意見を聞きたいので、短い散歩をするため服を着るようにと説得するよう、わたしはその医師に勧めた。その患者をベッドから出すことは難しいことであったが成功した。そして翌日は少し遠くまで行った。三週間後彼はもう説得の必要がなくなり、まもなく衛生的な食事に対して食欲が出た。これは17年前のことであり、その人はまだ生きており、頭脳も骨も筋肉もしっかりしている。

兄弟よ、あなたの全身全霊を平等に働かせないかぎり、あなたは身体的にそのあるべき状態ではいられない。……主はあなたの助け手であり、あなたの神であられる。主はあなたの場合を取り上げ、あなたが頭脳と骨と筋肉を適切に働かせるなら、あなたと協力される。あなたは偉大な医師であられる方の処方箋を受け取るであろうか。(手紙 160, 1907年4月30日スター兄弟姉妹へ)

研究 4

清めの特別な働き



罪を取り除く

人は罪を犯したために、神の恩寵を失い、性質はゆがみ、心は神と隣人への愛から利己心へと変わり、パラダイスも、命も失いました。しかし、この罪人に示されたのが、「聖所」です。

聖所におけるキリストの働きの目的は、単に罪を許し、その報いである刑罰からまぬかれさせるだけではありません。それはあたかも罪を犯したことがなかったかのように、罪を一その結果も影響も一切を一完全になくすことです。「わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した」(イザヤ 44:22)。「主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない。それはわたしが残しておく人々を、ゆるすからである」(エレミヤ 50:20)。

そのためには、まず人の心から完全に罪が除去される必要があります。その後、人が二度と罪に戻らないことが明らかになった時に、最終的にその罪が記憶もろともこの宇宙から完全に抹消されるのです。

ですから、悔い改めた罪人の罪は、まず、身代わりとなる犠牲の血によって聖所へ移されます。

罪人から聖所へと罪が移される(日ごとの奉仕)

「毎日、悔い改めた罪人が幕屋の入り口に供え物を持って来て、手を犠牲の頭において自分の罪を告白し、こうして自分の罪を象徴的に自分自身から罪のない犠牲へと移した。それから動物はほふられた。「血を流すことなしには」罪のゆるしはあり得ない、と使徒は言っている。肉の命は血にあるからである」(レ

ビ記 17:11)。破られた神の律法は、罪人の生命を要求した。罪人の失われた生命を表わす血、すなわち犠牲が彼の罪を負って流したものが、祭司によって聖所の中に運ばれ、幕の前に注がれた。幕の後ろには、罪人が犯したその律法を入れた箱があった。この儀式において、罪は、血によって、象徴的に聖所に移された。ある場合には、血を聖所に持って入らず、モーセがアロンの子らに命じて「あなたがたが会衆の罪を負(う)……ため、あなたがたに賜わった物である」と言ったように、祭司は、そこで肉を食べなければならなかった(レビ記 10:17)。どちらの儀式も同様に、悔い改めた者から聖所へと、罪が移されることを象徴していた(各時代の犬争闘下巻 131)。

「こうしたつとめが、一年を通じて毎日行なわれていた。このようにイスラエルの罪が聖所に移されたので聖所は汚れ、そのため、罪を取り除く特別のつとめが必要となった。神は、祭壇と同様に二つの聖所の部屋についてもあがないをなし、『イスラエルの人々の汚れを除いてこれを清くし、聖別しなければならぬ』とお命じになった(同 16:19)」(人類のあけぼの上巻 419)。

罪人は、まだ律法の宣告から全く解放されたのではない……

「贖罪に関する重要な真理が、型としての儀式によって教えられている。罪人の代わりに、その身代わりとなるものが受け入れられた。しかし、犠牲の血によって罪が取り消されたわけではなかった。こうした方法によって、罪が聖所に移されたのであった。罪人は、血のささげ物によって、律法の権威を認め、犯した罪を告白し、来たるべき贖い主を信じる信仰によって許しを願っていることを表明した。しかし彼は、律法の宣告から全く解放されたのではなかった」(各時代の犬争闘下巻 134)。

「一年間にわたってささげられた罪祭によって、罪人に代わるものが受け入れられてきた。だが、いけにえの血が罪に対する完全な贖いを果たしたのではなかった。それは、ただ、罪が聖所に移される手段を提供したにすぎない」(人類のあけぼの上巻 422)。

そのように象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った(人類のあけぼの上巻 420)。

「イスラエルの罪がこうして聖所に移され、そして、それを取り除くために特別

の務めが必要であった。そこで、神は、聖所の各部屋のために贖いをするをお命じになった。『イスラエルの人々の汚れと、そのとが、すなわち、彼らのもろもろの罪のゆえに、聖所のためにあがないをしなければならない。また彼らの汚れのうちに、彼らと共にある会見の幕屋のためにも、そのようにしなければならない。』また、贖罪は、祭壇にも行なわれるべきで、『イスラエルの人々の汚れを除いてこれを清くし、聖別しなければならない』（レビ記 16:16,19）。

一年に一度、大いなる贖罪の日に、大祭司は聖所を清めるために至聖所に入った」（各時代の争闘下巻 132）。

わたしたちは、これまでに地上の聖所が天の聖所の忠実な写しであることを学んできました（ヘブル 8:5）。地上の聖所で行われた奉仕は、天で行われる奉仕を忠実に教えているのです。

天の聖所も同様である

「古代において、民の罪が、信仰によって罪祭の上におかれ、そしてその血によって、象徴的に地上の聖所に移されたように、新しい契約においては、悔い改めた者の罪は、信仰によってキリストの上におかれ、そして実際に天の聖所に移されるのである」（各時代の争闘下巻 136）。

「悔い改めた者の罪は、……キリストの上におかれ、実際に天の聖所に移されるのである」。そうです、悔い改めた罪人は、キリストの聖所の奉仕により、この地上にいながらして、「子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである」体験をするのです。

しかし、それだけではありません。聖所における働きは、罪の記録さえもなくすのです。

「キリストの血は、悔い改めた信者のために嘆願し、彼らがゆるされ天父に受け入れられるようにしてきたが、しかし彼らの罪は、まだ記録の書に残っていた」（各時代の争闘下巻 136）。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じ

たものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許し書き込まれる」(各時代の大争闘下巻 215)。

「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである」(人類のあけぼの上巻 422)。

「このとき、真に悔い改めたすべての者の罪は、キリストの贖罪の血によって、天の書物から消される。こうして、聖所から罪の記録が除かれ、きよめられるのである」(人類のあけぼの上巻 422)。

最終的な清め

「真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなる……

人間を贖い、宇宙を罪からきよめるキリストのみわざは、天の聖所から罪を取り除いて、これらの罪をサタンの上に置き、サタンが最後の刑罰を負うことによって閉じられる。そのように、象徴的奉仕においても一年間の務めは聖所のきよめと、アザゼルのやぎの頭の上に罪を言いあらわす告白をもって閉じられた。

こうして、幕屋の務めと、のちにこれにとって代わった神殿の務めから、民はキリストの死とその務めに関する真理を日ごとに学び、そして、毎年一度、彼らの心はキリストとサタンとの間の争闘の終結、宇宙が罪と罪人からきよめられる最終的なきよめに向けられたのであった」(人類のあけぼの上巻 422, 423)。

これが、「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない」と言われる救い主だけがお考えになることのできる贖いの計画であり、聖所でなされる働きの結果です(イザヤ 43:25)。

こうして、宇宙は最終的な清めにより、「患難かさねて起らじ」とのみ言葉が成就するのです(ナホム 1:9 文語訳)。

(50 ページの続き)

かし、イエスさまは群衆に混じっておられたので、見失ってしまいました。

翌日、ヨハネはまたイエスさまを見て、このお方を指さして、叫びました「見よ、世の罪を取り除く神の小羊！」

それから、ヨハネはキリストのバプテスマのときに見られたしるしについて語りました。彼は付け加えて「わたしはそれを見たので、この方こそ神の子であると、あかしをしたのである」と言いました(ヨハネ 1:29, 34)。

おそれと驚きをもって聴衆はイエスさまを見ました。彼らはこのお方がキリストだろうか、と自問しました。

彼らはイエスさまが世の富や偉大さというしるしは何も持っておられないのを見ました。このお方の衣服は飾りのない単純な、貧しい人々が身に着けているようなものでした。しかし、このお方の青ざめ、やつれたお顔には、彼らの心を動かす何かがありました。

このお顔に彼らは威厳(いげん)と力をみとめました、そして、目のすべてのまなざしも、また表情のすべての顔つきも、天来のあわれみと言ひ表しようのない愛を物語っていました。

しかし、エルサレムから来た使者たちは、救い主に引きつけられませんでした。ヨハネは彼らが聞きたいと願ったことを言いませんでした。彼らは偉大な征服者としておいでになるメシヤを期待していたのです。彼らはこれがイエスさまの使命ではないのを見て、失望のうちにこのお方から離れていきました。

翌日、ヨハネはふたたびイエスさまを見て、ふたたび叫びました「見よ、神の小羊！」(ヨハネ 1:36)。ヨハネの弟子の二人が近くに立っていて、そして彼らはイエスさまについていきました。彼らはこのお方の教えを聞き、そしてこのお方の弟子となりました。二人のうちの一人はアンデレで、もう一人はヨハネでした。

アンデレはすぐに自分の兄であるシモン、すなわちキリストがペテロと名づけられた兄を連れてきました。翌日、ガリラヤに行く途中で、キリストはもう一人の弟子、ピリポを召されました。ピリポは救い主を見いだすただちに、自分の友人ナタナエルを連れてきました。

このようにしてキリストのこの地上における偉大な働きは始まったのでした。一人ずつこのお方は、ご自分の弟子を召されました。そして一人は自分の兄弟を、もう一人は自分の友人を連れてきました。これはすべてキリストに従う者がなすべきことです。自分自身がイエスさまを知るやいなや、彼は自分がどんなに尊い友を見だしたかをほかの人に伝えるのです。これは若くても老いていても、すべての人がなすことのできる働きです。つづく

ごぼうの洋風おこわ

■材料

- ・ 米 1.5 カップ
- ・ もち米 0.5 カップ
- ・ ごぼう 1本
- ・ ホールコーン 1/2 カップ
- ・
- ・ 塩 小さじ1
- ・ だしのもと 小さじ1
- ・ オリーブ油 大さじ1

■作り方

1. 米ともち米は洗って一時間ほど水にさらし、
2. ごぼうはささがきにし、さっと水につけてからフライパンにオリーブ油大さじ1杯とごぼうを入れて炒める。ごぼうの香りが香ばしくなるまで5分ほど炒め、
3. 炊飯器に洗った米類とそのごぼうとコーンと調味料を加えてざっと混ぜ合わせて炊く

もち米がない場合、お米だけでピラフ風になります。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



第15話 初期の働き(1)

荒野からキリストはヨルダンに戻られました。そこでは、バプテスマのヨハネが宣教していました。そのころエルサレムの役人たちにつかわされた人々が、ヨハネに人々に教えたり、バプテスマを授けたりする彼の権威について質問していました。

彼らはヨハネにメシヤなのか、あるいはエリヤなのか、または「あの預言者」、つまりモーセなのかどうかとたずねました。このすべてに対して、彼は「いや、そうではない」と答えました。そこで、彼らはたずねました、「あなたはどなたですか。わたしたちをつかわした人々に、答えを持っていただけるようにしていただきたい」。

「彼は言った『わたしは預言者イザヤが言ったように、「主の道をまっすぐにせよと荒野で呼ばわる者の声」である』」（ヨハネ 1:22, 23）。

むかしは、王が自分の国のある地域から別の地域へ旅行しなければならなかったとき、道をととのえるために、人が王の馬車の前につかわされました。

彼らは木を切り倒し、石を取りのけて集め、へこんだところを埋(う)めなくてはなりませんでした。こうして王のために道をきれいにするためでした。

おなじように、天の王なるイエスさまが来られるときに、バプテスマのヨハネがつかわされ、人々に教え、また自分たちの罪を悔い改めるように招くことによって、道をととのえるのでした。

ヨハネがエルサレムの使者たちに答えたとき、彼は川岸にイエスさまが立っておられるのを見ました。彼の顔は輝き、そして手を伸べて、言いました。

「あなたがたの知らないかたが、あなたがたの中に立っておられる。それがわたしのあとにおいでになる方であって、わたしはその人のくつのひもを解く値うちもない」（ヨハネ 1:26, 27）。



人々は大きく心を動かされました。メシヤが自分たちの中におられるとは！彼らはヨハネが話したそのお方を見つけようとしきりにあたりを見回しました。し